エンパワーするNGO YWCA
京都YWCA
1
2023
100th ANNIVERSARY KYOTO YWCA
古都に咲いて100年

YWCA フェスタ 2022
「食」と「居場所」は YWCA の DNA

YWCA は全国 24 の地域に活動拠点があります。4 年に一度、全国の仲間が集まる「YWCA フェスタ」が 11 月 26 日に開かれました。今回は全力ハイブリッド企画により、東京 YWCA 会館とオンラインでのフェスタとなりました。「出会う！つながる！共に社会を変える」というテーマのもと、京都 YWCA は 3 つの分科会を担当しました。その中で「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」を推進する京都 YWCA の会員活動推進部門である運営委員会が担当した分科会「『食』と『居場所』でつながろう！」について、参加者のひとりである横浜 YWCA の仲谷利理さんの感想を掲載いたします。

YWCA の精神を再確認する場

「誰もがほっとできる居心地の良い空間で、温かくて美味しいお茶やお菓子、ランチと過ごすひとときを提供したい」。それは、いつの時代にも心がけられてきた、YWCA の一面を表す DNA のような活動であり事業であると言えそうです。今回の分科会は、その DNA の強さ、そして、常に時代環境の変化を乗り越えて、活動を引継ぎ、更新して行こうとするスピリットを、改めて確認する場となったのではないでしょうか。

悩めるカフェ型活動の今

最初は、全国一円から集まった参加者から、それぞれの地域 YWCA のカフェ事業や活動の紹介、あるいはカフェや居場所づくりへの関心の理由について伺う時間でした。参加の皆さんが京都 YWCA の事前の宿題に応え、同じ項目についてそれぞれの活動について説明し、全国にある YWCA のカフェ情報を横断的且つ効果的に得ることができました。そこに共通する DNA や課題をイメージしながら、もっと見たい！知りたい！聞いてみたい！ことが、次々と頭の中に浮かびました。

続いて、グループ毎で話し合いました。私たちのグループは各 YWCA からの「課題」がそのままディスカッション・クエスチョンになり、討議が白熱しました。担い手の固定化・高齢化、職員の負荷増への懸念、昨今の原材料費等の高騰、価格設定の難しさ…。どの YWCA も厳しい運営環境にあり、具体的に挙げられた事例の一つひとつが、自分にも心当たりのありそうなことばかりです。その中に、一緒に活動する楽しさを創り出すことを諦めてはいない、というお話もあって、心に残りました。

「食」と「居場所」で YWCA 運動を継続する

分科会に参加して、社会状況やライフスタイルの変化による運営の難しさだけが共通しているのではなく、活動を通した他者や地域への貢献など、気持ちの面での共通点も分かち合うことができたと感じました。「誰かの力になりたい」という私たち YWCA が受け継ぎ、大切にしてきたスピリット。それを形にして実行する活動である「食と居場所」の課題は引き続き、来春京都 YWCA、横浜 YWCA、福岡 YWCA の協働でスタートさせる新しいプレジェクト、『多様な人々が集う居場所づくり』で考えて行きましょう。楽しみにさせていただいています。

最後に、この分科会とそれに連なる新プロジェクトについてご準備いただいた京都 YWCA の皆さまに、心から感謝いたします。

（横浜 YWCA　仲谷利理）

YWCA のカフェ事業のこれからについて白熱の議論

京都 YMCA/ 京都 YWCA 合同祈祷週集会

受け継いだ YWCA 運動の炎を社会に拡げ、次世代に手渡す

YMCA と YWCA は 11 月に共に祈る時間を持ってきた。 11 月 18 日、京都 YWCA を会場にオンライン参加も加えて合同祈祷週集会を持つことができた。今年のテーマは「運動の拡がりに火をともす――祈りによって」。

世界中の YMCA と YWCA に連なる人々が、私たちの生活と地域社会にポジティブな影響を及ぼすための祈りを呼びかけるという主旨で、榎本空さんをゲストに招いた。現在ノースカロライナ大学人類学博士課程に所属し、沖縄・伊江島に住みながら当地の土地闘争とその記憶について研究している榎本さんは、京都、台湾、ニューヨークで神学を学んでこられた。その経歴の中で、ユニオン神学校のジェイムズ・H・コーンを通じ、黒人神学に深く触れた時、魂に炎をともされた気がしたそうだ。その炎はどこからくるのか。その理由を問う時、黒人が背負ってきた歴史という現実に「呼ばれる」と語られた。

榎本さんは静かな口調の方で、しかし、語られる言葉には、何か私たちをインスパイアする力を感じた。現実にあるさまざまな苦しみや課題に気が付く時、自分の魂に炎がともされ、「呼ぶもの（calling）＝使命」に応えていくことが社会を変える「力」になる。「炎」は自分だけのものではない。松明（たいまつ）の火のように、人から受け継ぎ、人へ手渡し広がっていくのだと。

集会の後半は小グループでの交流だった。あるグループでは、榎本さんからの語り掛けを自身の取り組みに引きつけ、それぞれの想いをシェアした。現場で耳にする「声」を聴く者としての責任、一つひとつの声にどのように応えていくのか。どうすれば後に続く人の心に炎を点火することになるのか。合同祈祷週集会で榎本さんの声を聴いた人は、魂に新たな炎がともされたに違いない。

100 年前に点火された京都 YWCA という炎は、それを受け継いできた一人ひとりの会員の想いとともに、その明るさを損なうことなく大切に次に手渡したいという想いを強くする集会となった。

（編集部）

参加者それぞれの魂の炎を確認しあう時間

今年も「あきまつり」を開催しました

この日は京都 YWCA で 25 年以上も取り組んでいるプログラム「親と子のリズムあそび」からスタート。初めての子どもやお父さん、お母さんもピアノに合わせて歌ったり、踊ったり。

ロビン・ロイドさんの民族楽器ワークショップでは、見たこともない楽器を触って「何でできているの？」と不思議顔の子ども。ロビンさんの楽器にはヤギの爪や牛の骨があるのです！

「聴くだけじゃない音楽会」はバイオリン、チェロ、ピアノによるクラシック特集。曲と曲の間で楽器の紹介もあります。

180cm×450cm のビッグアート

子どもたちにはバルーンアート、輪投げ、ビッグアートが好評で、大人も絵本コーナー、防災ワーク、クラフトそしてスイーツを楽しんでいましたよ。

（岡　佑里子）

京都 YWCA クリスマスの集い

～希望を持ち続ける光～

12 月 10 日クリスマスの集いを「希望をもちつづける」というテーマで行いました。礼拝では日本基督教団石山教会の須賀（すが）工牧師よりメッセージをいただきました。救い主であるキリスト生誕が、当時もっとも低く穢れた存在とされた羊飼いの子どもたち、国を持たない博士たちにもたらされたことの意味を解説され、深い暗闇の中にある「光」の意味を分かち合いました。

礼拝の後は、エコ・ド・Y によるコーラス、親子ライブラリーのペープサートでの生誕劇とお話、「リズムあそび」講師の赤尾さんのピアノ演奏。それぞれの熱演に、会場の外にまで溢れた多世代・多文化の参加者たちは笑顔で大きな拍手を送りました。京都 YWCA の目指す形が投影されたような、あたたかな「光」を感じるクリスマス祝会となりました。

（編集部）

京都 YWCA 親子ライブラリーによるキリスト生誕劇

ピーター・バラカン DJ ライブ―女性たちへの応援歌
"Put a Woman in Charge"（そろそろ女に任せては）

12 月 3 日に日本聖公会聖アグネス教会にて、京都 YWCA 創立 100 周年記念プレイベントとして開催した。

テーマは「女性たちへの応援歌」。100 年継続してきた京都 YWCA の活動、これからの 100 年も継続できますようにと願いをこめて。参加者は、京都 YWCA の会員や関係者、バラカンさんの熱心なファン、一般の方々も多く 100 名近かった。最初に京都 YWCA からのあいさつと、DJ ライブ 11 回を迎えるにあたって、1 回目はどのようにして始まったかの話があった。

DJ ライブは、コンサートと違いプログラムがないので、どんな曲が出てくるのか、次は何の曲だろうかとワクワクしながら待つのを楽しみ、かかった曲についてのバラカンさんの説明やお話も興味深い。

今回の第 1 曲目は、カリプソ（カリブ海周辺の音楽）"Put a Woman in Charge"（そろそろ女に任せては）。「私たちは未来の力」という少女たちの写真に添えられた世界 YWCA のメッセージ「男たちにまかせると戦争ばかりする」を思い出した。励ましの曲だろうか、"Man Smart, Woman Smarter","Women will Rule the World"（女たちは世界支配するだろう）と続いた。エルヴィス・プレスリーがカバーしてヒットした "Hound Dog"、それについての裏話。その気になればできないことはない、"Yes,We Can Can","We Go High"（ともに前を向いて進もう）で前半が終了。

ローリングストーンズも歌っているシェミカ・コーポランドの "Under my Thumb" で後半は始まった。アリサ・フランクリンの "Do Right Woman, Do Right Man"、弦楽四重奏が入った曲、ゴスペルソングと美しい曲が続き、フォークソング世代には懐かしいジョーン・バエズの "Deportee"（国外追放者が乗った飛行機の事故の話）が紹介された。

最後は宮古島の子守唄「ばんがむり」、ミルドレッド・ベイリーが歌う "Rocking Chair" が流れ、「100 年間ご苦労さまでした、これからも一歩ずつ確実に歩んでいこう」とメッセージを頂いた気がした。

（坪野えり子）

12 月 3 日 DJ ライブ：ピーターさんを囲んで

100th ANNIVERSARY KYOTO YWCA

シリーズ――京都 YWCA100 年の歩み（12）

自立援助ホーム「カルーナ」の開設と社会的養護を必要とする若い女性の支援

京都 YWCA が進める「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」の一環として、4 年間の準備期間を経て 2015 年 4 月に自立援助ホーム「カルーナ」を開所した。自立援助ホームは児童福祉法に基づき、概ね 15 歳から 20 歳の高齢児童に安心・安全な居場所を提供し、就労や就学を支援して自立に繋げる施設である。最初の利用者二人と共にカルーナでの生活の形を作り、自分で考えて決めることを大切にした。利用者は徐々に増え、2016 年に定員 6 人に達した。同年、カルーナ教育奨励基金を設置し、利用者や退所者が専門学校や大学で学び続けることや資格取得などを応援している。

カルーナ利用者は被虐待、障がいや疾病、貧困などさまざまな困難を抱えており、児童相談所のケースワーカー、カウンセラー、医師などと連携して支援にあたっている。また、京都 YWCA や他団体の多様なプログラムに参加したり、若者就職支援事業を活用して就労体験をするなど、社会経験値を増やせるよう、YWCA ならではの取り組みを行なっている。

退所後も必要な支援を続ける

開所から 7 年が経ち、30 人以上がカルーナを巣立ち、一人暮らしなど自立した生活を始めた。音信不通の人もいるが、毎年実施するホームカミングデイ＆成人のお祝い会に来館したり、2022 年に始めた若者の居場所「Y ここ Kitchen」に参加する退所者も多くみられる。2023 年にはホームの定員を増やし、退所者支援をさらに充実させる計画である。

こうした活動は行政からの措置費のみでは実施できず、カルーナ後援会員の皆さまをはじめ多くの方のご支援により成り立っている。この場を借りて深く御礼申し上げたい。

2022 年 1 月　ホームカミングデイ＆成人のお祝い

今後のプログラム

◎「京都 YWCA100 年の歴史を知る」シリーズ⑤（最終回）

「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」の開始（2014）から現在までの 10 年間を振り返ります。

■日　時：2023 年 1 月 14 日（土）　13：30 ～ 15：30
■場　所：京都 YWCA およびオンライン
■対　象：会員、会友、関心がある方どなたでも
■参加費：無料　申込み締切：1 月 11 日（水）

◎京都 YWCA2・11 集会

2 月 11 日の建国記念日は国家神道の神話に基づいて戦後に復活・制定。今年度は外国人学校に対する官製ヘイト、技能実習生、難民、入管など外国人差別の実態に迫る高賛侑（コウ・チャニュウ）監督の最新作『ワタシタチハニンゲンダ！』（2022 年）を上映します。

■日　時：2023 年 2 月 11 日（土）　13:00　開場　13:30　上映
■場　所：日本キリスト教団室町教会　（予定）
■参加費：1,500 円

◎定期会員集会

■日　時：2023 年 3 月 4 日（土）
■場　所：京都 YWCA およびオンライン
100 周年を迎え、これからの展望を語り合います。

ご協力ありがとうございました

2022年10月1日から11月30日　寄付者一覧（敬称略、順不同）

各指定寄付
＊法人支援
神岡茂子

＊クリスマス募金
筒井奈都子

各指定寄付
＊ 100 周年記念募金
卯野久美子、上原従正、山上義人、板倉佐恵子、小池穂高、有田孝子、工藤信子、小室京子、大屋美智子、山口秀子、長塩滋子、日月公子、本田次男、中嶋野花

＊ふれあいの「居場所」事業部委員会
イエニックふたみ

＊多文化共生委員会
飯田修、冨田京子、内田匡子、中川美佳子、梶川よ志子、友岡文

＊ APT
安藤いづみ、神門佐千子、杉山知子、マーサ･メンセンディーク、大手理絵、田中順子、上村兪巳子、阿久澤麻理子、織田雪江

＊自立援助ホーム「カルーナ」
小室京子、伊部恭子、小林裕彦、井上摩耶子、井上依子

＊賛助費
中村美智子

「京都 YWCA100 周年記念募金」へのご協力のお願い

京都 YWCA は来年 2023 年に 100 周年を迎えます。現在「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」事業を推進しており、この歩みをさらに前進させるために、100 周年記念募金を実施しています。ご寄付は以下の目的に充てられます。

●担い手育成・次世代育成のために
●保育環境の向上のために
● W・M・ヴォーリズ設計「サマリア館」の補修のために
●歴史を未来に引き継いでいくために

目 標 額：1,000 万円
募集期間：2021 年 4 月～ 2024 年 3 月
募 金 額：個人　　1 口　3,000 円
　　団体・企業　1 口 10,000 円
郵便振替　01080−9−1566
加入者名　公益財団法人京都 YWCA

オンラインによるご寄付は以下のサイトよりお願いします。
https://congrant.com/project/kyotoywca/4775

11・12月／理事会報告

●京都 YWCA のサマリア館が京都市の「京都を彩る建物や庭園」に選定された。
●日本 YWCA オンライン研修（社会変革に挑む YWCA の組織ガバナンスについて）の全 3 回のうち 2 回終了。研修を運営に反映させることを試行中。
● 11/6：あきまつり実施（本誌 2 ページ参照）
● 11/18：サマリア館補修工事について建築士と協議。
● 11/26：YWCA フェスタ 2022 に、京都より 15 名参加（本誌 1 ページ参照）
● 12/3：ピーター・バラカン DJ ライブを聖アグネス教会にて実施（本誌 3 ページ参照）
● 100 周年記念実行委員会：記念旅行として 2023 年 10 月に釧路 YWCA 訪問と、2024 年 1 月に記念シンポジウムを予定している。
●京都 YWCA ふれあいの居場所「うららかふぇ」を有償で担う「委託」者を募集中。
詳細は https://kyoto.ywca.or.jp/event/

ＫＹＯＴＯ　ＹＷＣＡ　No.572　2023 年 1 月号（1月1日発行）
発行人：上村兪巳子
発行所：公益財団法人京都 YWCA
〒602-8019
京都市上京区室町通出水上ル近衛町44
電　話：(075) 431−0351
ＦＡＸ：(075) 431−0352
e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp
ＨＰ　：http://kyoto.ywca.or.jp
郵便振替：01080−9−1566
口座名義：(公財) 京都 YWCA
定　価：1 部 50 円
発　行：奇数月 1 日発行